

平成 28 年度第 1 回千曲市総合教育会議議事録（要約）

1. 日 時

平成 28 年 6 月 29 日（水） 午前 11 時から午後 0 時 10 分

2. 場 所

千曲市役所戸倉庁舎 会議室 2

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) 閉会

4. 議 題

- (1) 千曲市教育大綱（案）について
- (2) その他

5. 出席者

委員 岡田市長 赤地教育委員長 若林職務代理者 武井教育委員 坂本教育委員
中村教育委員 吉川教育長

職員 多田総合政策担当部長 安西教育部長 竹内総合政策課長 坂井教育総務課長
宮原政策推進係長 滝沢総務係長 宮澤主査

6. 会議要旨

開会 事務局（多田総合政策担当部長）進行

岡田市長あいさつ

前回の総合教育会議では、教育大綱（案）に対し、様々な意見をお出しいただいた。皆さんの意見をお聞きして、市全体の教育行政を網羅するような大綱（案）を事務局でまとめさせたので、再度ご覧いただく。

改選後の市議会（総務文教常任委員会）では、教育大綱の報告・説明ができればと考えている。千曲市らしい大綱となるようご審議賜りたい。

会議事項

(1) 千曲市教育大綱について

事務局（宮原政策推進係長） 事務局で作成した「千曲市教育大綱（案）」について説明

(岡田市長)

ご覧いただいている「千曲市教育大綱（案）」は、「千曲市教育振興基本計画」「千曲市生涯学習基本構想」「千曲市男女共同参画計画」「千曲市文化芸術振興基本計画」など、関係する計画のエキスをまとめたものと考えている。委員のご意見を頂戴したい。

(赤地教育委員長)

「ちくまっこ」に合わせて良く考えていただいたと感じる。細かい点で2, 3あるが、それは後で申し上げたい。

(若林職務代理人)

「ちくまっこ」の文字に計画が網羅されていてとても良いが、冒頭のキャッチフレーズの中で方言である「オラチ」と「オラホ」を使うのは古い感じがするのではないか。若い世代の共感を得られるのか。

(中村委員)

「ちくまっこ」の「ち」…「バランスが取れた」との表現についてだが、限られた制約の中ではじめから「知・徳・体のバランス」が取れない子どももいるので、配慮が必要ではないか。表現に引っかかる保護者の方もおられるのではないかとちょっと心配だ。

(吉川教育長)

うまくまとめていただいた。気になる点は「オラチ」「オラホ」が唐突な感じがする。千曲市らしさ・親しみやすさ・愛着という面からすると、親しみや愛着が先に立ってしまう危惧がある。

「く」の「くまなく…」は、説明がないと意味が分かりづらい気がする。これに代わる何か良い言葉があればと思う。基盤には計画や条例がいくつもあるが、ここでは「千曲市生涯学習基本構想など」と表記されている。それぞれから具体化したものが「千曲市教育大綱」だと分かってもらうには、全てを列記した方が良いのではないか。

「こ」の「誇りを持てる」は「誇りが持てる」でも良いのではないか。また「誇り」は心の問題なので「持つ」の表記は「もつ」でも良いのではないか。

(坂本委員)

初めて見て、中身を読む前に「いいものができたなあ」という香り、匂いがする。

読んでも納得したが、大綱はリリースするときのデコレーションも大事なので、もうひと工夫、一捻りいただきたい。また大綱の基になった地方教育行政法の改正骨子、市長が教育も含めた市の行政をけん引していくという姿勢をアピールする事項も入れていただきたい。

(武井委員)

「オラチ」「オラホ」の方言がどうかということもあるが、千曲市の大綱であるならば、むしろ特殊性が出てよろしい。方言はマスコミなどでもあまり使われない言葉であり、逆に出すことの効果が感じられる。

最後に「ひとつづくり」は「まちづくり」だとの基本的なことをうたっていることで、全体として整っている。

(岡田市長)

様々な意見を出していただき感謝申し上げます。今出てきた意見について、一つ一つ審議していきたい。まず、「オラチ」「オラホ」の表現についてはいかがか。

(吉川教育長)

親しみやすさや愛着という観点からは非常に面白いと思うが、いきなり大きい字でバツと出てくると、強烈過ぎる。字のポイントを小さくして、少しおとなしい印象にしてはどうか。

(若林職務代理人)

方言を大事にして守っていくことに異論はないが、「オラチ」「オラホ」の言葉の響きとか、言葉の韻や音で受ける感覚からすると、大綱のキャッチフレーズとしてはいかがなものか。

(坂本委員)

実際に大綱を配布するときは、キャッチフレーズの色とか字体も考えることになる。だから「オラチ」「オラホ」は大綱の内容というよりはイラスト的に捉えて、どこにこのイラストをポイントとして持っていくかが重要だ。そういう点からすると「オラチ」「オラホ」はすごく良い。是非使うべき。

(武井委員)

例えば「千曲っ子からはじめるひと（まち）づくり あなたもわたしも」とすると、ごく平凡な印象になってしまう。むしろ、地域性を考えれば、こういう言葉を使った方が逆にインパクトがあるのでないか。

(中村委員)

私は「オラチ」「オラホ」は好きだ。地域性が出ていてとても良い表現だ。特に「オラホ」は全体で、みんなでという意味にもとれる。千曲市から出すもので、家庭でも地域社会でもという訴えならば、このままで良い。

(岡田市長)

それでは、「オラチ」「オラホ」は基本的にイラスト的でありあまり強い印象にならないよう配慮しながら使用するということとさせていただきたい。

次に、中村委員のご意見にあった「知・徳・体のバランス」について、意見があればお出しいただきたい。

(若林職務代理人)

現実はそのじゃないということもあると思うが「願い」とすれば、バランス良く成長していつてもらいたいという意味を込めての「バランスが取れた」という表現でいいのではないか。

(赤地教育委員長)

「知・徳育・体のバランス」の広い意味でのことなので、普通の使い方だと思う。特に配慮が必要なことについては「ま」の「誰をも思いやる心」や「こ」の「みんな尊重され」に含まれているのではないか。

(中村委員)

「知・徳・体のバランス」が取れていなければ「輝き、たくましい子ども」じゃないのかって受け取り方をすると、誤解を生じる可能性があるのではないか。特に障がいをお持ちの方々には気にされる部分ではないか。

それぞれの個性の中で「知・徳・体」の向上を自ら目指すという概念とバランスが悪くてもその

制約の中で一生懸命「やる」ということが表わせばなと考えたままで、こういう議論があつて「それは包括しているよ」とするならば、それでよろしい。

(赤地教育委員長)

「ち」の最後の「育みます」にそういう意味も込められていると考えられないか。みんながこれからそちらに向かって努力しましょうと取れないか。

(中村委員)

ここで言っている主旨に反対している訳ではない。ただ、表現によって誤解が生じた場合や強い意見があつた場合に「それは話し合いました」ときちんと答えられれば良い。

(坂本委員)

日本では「協調性」とよく言われますが、それと話に出ている「バランス良く」と、今は「個性を伸ばす」といった教育も聞かれる。これら全体を包括した文書だから一つの方向を出さなきゃいけない。

(若林職務代理者)

オリンピック選手など何かに特化して成長した人たちでも、基本的な部分でのバランスは取れている。基本的に取れていて、ぐっと「知」が伸びたり「体」が伸びていたり、基本がゼロで伸びるということはない。

(坂本委員)

今は子どもたちに対し積極的に手を挙げて自分の意見を発表しましょうと教えているが、それが行き過ぎてしまうと人の意見は聞かずに自分の意見だけ言うようになってしまう。このような場面で求められる「バランス感覚」を意識しながら、子どもたちを育てていく、と考えると「バランス」という言葉は良い。

(若林職務代理者)

はやりの言葉で「空気が読めない」というが、誰かが話している言葉に心を寄せて、例えば授業でも自分の思いを訴えたり、他人の言葉を聞いたりできるという意味で、バランスは大事である。みんなが同じという意味のバランスではなくて、人としてバランス良く成長していく、育てていくバランスと考えれば、このフレーズは悪くない。

(岡田市長)

様々な意見をお聞きして、理解が深まりました。その上で「バランス」という言葉を使っていくことにさせていただきたい。

次に、「こ」のところで「誇りを持てる」ではなくて「誇りが持てる」の方が良いのではという意見だが、これについて意見を伺いたい。

(中村委員)

何に対して「誇りを持てる」「誇りが持てる」なのだろうか。

(吉川教育長)

「自分の郷土」「まち」に対して「誇りが持てる」ということなのではないか。

(若林職務代理者)

「まち」にかかるとしたら「が」のほうが自然か。

(中村委員)

「を」と「が」で、この文脈ではあまり大きな意味の違いはないと思う。

ただ「誇りを持てるまちづくりを」の1行の中に「を」が2回出てくるため、ここでは「が」の方が良いのではないか。

(若林職務代理者)

「つ」のところで「原点で」及び「出発点」の後に読点がついているが、これは正しいか。

(岡田市長)

基本的に大綱のキャッチコピーやスローガンを作るときに句点や読点はつけない。読む人によって見方は変わるかもしれないが、スペースを空けるくらいで、極力つけない方が良い。

(坂本委員)

この大綱は教育に関わる「基本計画」「条例」が全部入っていて良くできている。ただひとつ無いのが「歴史的風致の維持及び向上の推進に関する法律」だ。千曲市として目玉だと思うが、新しいものだし、入れても入れなくてもどちらでも良い。

(岡田市長)

そう、大事な文化面はどこに入ってくるのか。芸術やスポーツはあるが「文化」が無い。

(吉川教育長)

確かにそう言われると、「く」のところで「学びや芸術・スポーツ～」の間に「文化」を追加しても良いのではないか。

(岡田市長)

「文化」は必要だ。「歴史」は「文化」とも言えて、そうすると坂本委員の意見も全部入ってくる。

(若林職務代理者)

坂本委員の意見が郷土愛を含め歴史を抱えた千曲市全体の郷土に対する誇りというものなら、「こ」の「誇りを持てるまちづくり～」にも入っていそうだが、「文化」ひとつで表せるのか。「郷土愛」という言葉を入れろということか。

(坂本委員)

「芸術、文化、スポーツ」を広い言葉でいうと「文明」だ。私もそこに入っている。ただ「歴史的風致の維持及び向上の推進に関する法律」は、これから10年、20年の間の目玉になってくるので、その部分だけをクローズアップして関連できたらと考えた。

(岡田市長)

大綱にまとめている教育の基本計画は、人に対するもので言わば「ひとづくり」。「歴史的風致の維持及び向上の推進に関する法律」に基づく「歴史的風致の維持及び向上計画」は、どちらかという、地域の「風土」や「歴史」を大事にしようってことで、「ひと」を中心にした「教育大綱」にクローズアップするのはいかがか。

(坂本委員)

「歴史的風致の維持及び向上の推進に関する法律」の第一条の趣旨、目的から地域の風致を維持することと人の長い間の営み、続けてきた活動を継承していくという文化面と並列的に感じたので、制度や設備などいわゆるハードを維持していくという法律の中ではあるが、重要だと捉えた。

(岡田市長)

確かに、姨捨の棚田一つ捉えてもそこには人の営みがある。「歴史的風致の維持及び向上の推進に関する法律」の中の人間が関わってくる大きな部分だ。

(中村委員)

先程の若林委員の「つ」での違和感は「家庭が原点、全ての教育の出発点」と同じことを二度繰り返していることが原因ではないか。また、「強い絆」と「家庭教育を支えます」がどうつながるのか、少し整理が必要である。

「こ」の「誇りが持てる」の主語が誰かということについてもねじれが無いようにしたい。すべての主語が「市の教育行政は」なら、そのことを念頭に置いて文言を揃えてはどうか。

(吉川教育長)

私も「つ」のところで「強い絆」と「家庭が教育の原点」の関係が分かりづらい点と、「原点」と「教育の出発点」が重複している点が気になる。内容的には本当に良い。

(岡田市長)

日本のルールからすれば家庭を大事にすることは通常やってきた部分だろうが、最近、それが欠けてきているので「強い絆」とあえて入れたのではないか。「原点」と「教育の出発点」の重複は「家庭教育が全ての教育の出発点」としたらどうか。「強い絆」は残したい。

(若林職務代理者)

こういうキャッチコピーは、この文言がここに係るっていうのも大事だが、この文言で切ることで強く印象づけるということもある。

「こ」のところに「郷土に誇りが持てる」と入れると、ややこしい。

(岡田市長)

「こ」のところで「まちづくり」とは、「人間」もそうだし「景観」もそうだし「全て」のこと。その「全て」に「誇りが持てる」という意味で、ご指摘のとおり「誇りが持てる」とし「持てる」を平仮名でどうか。

「く」のところで「くまなく」の「芸術・スポーツ」の並びの中に「文化」の文言を入れていくこと、「つ」のところは「強い絆 家庭教育が全ての教育の出発点」とまとめて「原点」と「出発点」の重複を避けることで、決定してよろしいか。

リリースするときのデコレーションの工夫については、インパクトの強い、編集をするということで良いか。

(坂本委員)

繰り返しになるが「バランスがとれた」と平仮名でなくて良いか。「充実・成長に努めます」はこの漢字でいいか。

(吉川教育長)

これは「努める」で良いのではないか。

(岡田市長)

それでは「ち」の「取れた」は「とれた」と平仮名表記にし、「こ」の「目指します」も平仮名の方が良いのではないか。今、この字はあまり使わない。

(武井委員)

「こ」のところで「愛し誇れるまち」としてはどうか。「愛し」は「ひとを愛し、地域を愛し、ものを愛する」それを「誇れるまち」にしたいと。少しぼやけるが、先ほどの歴史的風致の関係や地域性のものも加味した形になってはこないだろうか。

(吉川教育長)

「愛する」から「誇りが持てる」、「愛せるから誇りが持てる」わけで、いろいろ入れるよりすっきりしている方が良いのではないかと。

(岡田市長)

「誇り」と「愛」は、「愛」があるから「誇り」が持てると解せば、どうか。

(武井委員)

そういう解釈ができるということであれば良い。

(赤地教育委員長)

引用の条例について、「ま」の「千曲市生涯学習基本構想」は「く」のところと重複しているので、代わりに、「人権とくらしに関する総合計画」を入れてはどうか。

「こ」のところには「千曲市子ども育成条例」とともに、「歴史的風致」の条例も入れてはどうか。見出しのところの「ひと（まち）づくり」のまちのかっこをはずして「・」にしたらいかがか。「オラチ」の下に漢字で「家庭」とし、「オラホ」の下に漢字で「社会」と入れれば、年配者向けに偏っているというのが少し和らぐのではないかと。

(岡田市長)

「ひと（まち）づくり」の（まち）かっこ書きは、「まち」は「ひと」がいなければ成立しない。「ひと」と書きながら「まち」を連想させるという思いを込めたものだ。はじめは「・」だった。「まち」と「ひと」をイコールにした方が良いよという話でスタートしたものだ。

(赤地教育委員長)

検討済みであれば、結構だ。

(若林職務代理者)

「こ」のところ「郷土に誇りを持てる」とは「歴史」も大事にしながらの「まちづくり」という意味ではどうか。

(岡田市長)

「郷土」に限らず、まち全体に「誇りが持てる」という意味でそれぞれが受ける印象が違っていても良い。あえて「この誇りとは、これじゃなくちゃいけないよ。」としないで、受け取る人によって変わることでも良い。みんながそれを見て、想像を膨らせていってもらえたら良い。

(若林職務代理者)

受け取る人がイメージを膨らませることができるのがキャッチフレーズの良いところということはある。ただ、この大綱をリリースするときのデコレーションの仕方は重要と考えるので、工夫していただきたい。

(武井委員)

「こ」のところ、「みんなが尊重される」の「みんな」は無くて良いのではないかと。

(若林職務代理者)

「みんな」が入っていた方が、何か包み込むような温かさが伝わってくる。

(岡田市長)

「子ども」だけに限らず、「全ての市民」が尊重されなければならないという意味も出て良い。先ほど、デコレーションについての意見があったが、一番下段の2行の文章についてももう少しアピール力を出したい。

この総合教育会議にて教育委員会と市が一緒になって熱い議論をし、出来上がったというものが表現できないか。次回の会議までに事務局にもう一捻りしてもらいたい。また、次回の会議までの間、教育委員会でも再度、スローガンの文言等も含めて議論いただきたい。そのうえで、本日いただいた意見と併せてもう一度事務局で整理させ、次回は最終案としてお示しをし、最終決定としたい。

(2) その他

事務局（多田総合政策担当部長）

本日の議論を踏まえ教育委員会としての意見をまとめ、事務局にお伝えいただきたい。次回お示しする最終案の参考とさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

閉会 **事務局**（多田総合政策担当部長）進行

（閉会時刻 12：10）

議事署名人
